



校長室だより

校長 山崎 聡子

出会いを大切に

赤ちゃんの綺麗な瞳に出会うと心が洗われる思いになります。それは、一点の曇りもない美しい心がそのままうつしだされている瞳の力ではないかと思えます。誰もが赤子の時代を経てきていると考え、純粋な真っすぐな美しい心を全員がもっていると思えますし、今、目の前にいる子供のもつかに寄り添っていきたくと改めて思う日々です。

子供のもつかに信頼し教育に携わってこられた方々の一人である坪田耕三先生に出会ったのは、2007年。当時、筑波大学附属小学校で教鞭をとられていた時でした。坪田先生の子供たちを見つめる優しい眼差し、一人一人を大切に展開される温かな授業に心惹かれ、坪田先生のようになりたいと目標をもち、坪田先生の授業を何度も見せていただいたり、御著書を読ませていただいたり、お話を伺ったりしながら学ばせていただきました。坪田先生は、「子供の豊かさに培う共生・共創の学び」を推進されておりました。豊かさは子供自身もっているのだという信念をもたれ、「子供の豊かさを培うでなく、子供の豊かさに培う」ということを繰り返しお話されてきました。2018年に、坪田先生は御逝去されましたが、坪田先生との出会いを通して学ばせていただいた、子供たちを尊重し、子供たちの中にある力を信じることで、子供たちの素晴らしさを価値づけて、子供たちに返していくことで皆がさらに豊かになるという見方を大切にしたいと思えます。

大きく自分を変える出会いは、大人だけでなく子供たちも同じであると考えます。昨年の8月に参加した研修の中で、講師の先生から、次のようなお話がありました。

「子供たちにとって、何が大切なのかを知っている大人に出会うことが重要である」と。講師は、茨城大学名誉教授・福島学院大学客員教授の岸良範先生です。小学校の頃、岸先生御自身が、周囲の期待に応えるいい子を演じていて苦しかったこと、でもその苦しさを理解してくださった先生が無条件で受け止めてくださり安心して学校生活を送れるようになったという御自身の経験の中から語られた言葉でした。子供にとって、大人がどのような対応をしたらいいのか、岸先生から温かな視点をいただきました。子供たちが問題行動を起こした際に注意・叱責・助言・指導をしながらも、問題行動が生み出されてくる過程(事情)を思いやること、身を案じることが大切なこと、なかなか変えることができない子供を責めるのではなく、「こうしなければ、今までやってこれなかったんだなあ」という温かな大人の眼差しが必要であり、叱る以上に、その子の苦しさを理解しようとするのが大切であること、子供の言葉にならない思いに寄り添い、言い訳に耳を傾け、悔しさや実現できなかった思い、こうしたかたかを一緒に考えていくこと。講義から、子供の心に寄り添う温かさが子供の成長を支えるということを再確認できました。

子供たちにとって安心できる存在になれるよう日々努めていきたいと思えます。